



健康診断を受けていても安心できない？ 最近まで元気だった人が…

80歳代の男性が来店され、「薬局の会員登録、家内の名前になっていましたが、亡くなりましたので」と――。

お茶でもどうぞ

男性の奥様は、半年前くらいまで、元気に来局されていました。

毎年、人間ドックで検査をしていて、どこも悪いところはなく、検査も異常なしだったとか。

ただ、今年の間ドックで、肺に影が見つかり、すぐに精密検査を受けるようにと、総合病院を紹介されたそうです。

検査入院が終わって、「2週間後には結果をお知らせします」とのことだったのですが、3日後には、「すぐ入院してください」との電話が入ったとのこと。がんが転移していて、手術もできないといわれたようです。

抗がん剤を投与、話題の薬剤も使ったといいます。副作用も出ず、半年は普通に暮らしていたとか。

とはいえ、食欲はあるのに、胃が食べものを受けつけなくなっていったといいます。

入院して治療を再開、確実に骨転移もあるものの、本人は痛みはなかったそうです。医師は、「ガマン強い方ですが、痛みがないわ

けがないので」と、鎮痛剤も点滴に加えてくれたとも。

異常が見つかったから、1年も経たずに亡くなったとお話されました。

娘さんは、同じ市内に住むものの、事実上、1人暮らしとのこと。奥様が亡くなってまだ、時間が経っていないので、気も張っているのでしょう。

そこで、お伝えしました。

「よそでいえないことでも、お話ししに来てください。何も買わなくていいのです。お茶をのみにでもいいですよ。気持ちも、少しは晴れるでしょう」

ご主人は、笑みを浮かべながら、帰って行かれました。

重いひと言が響く

一方、82歳の女性。現役のところは会社の健康診断で、退職してからは市民健診で、健康管理をしているつもりだったとか。

ところが、「何の異常もなかったのに、がんが見つかった」と。

主治医は、いったそうです。

「去年まで何もなく、今年になっ

て急に、この大きさになるとは考えられない。どうして見落とされてしまっていたのだろうか」

集団の健診の盲点を、強調したようです。手術して、今年で8年目になるといいます。

「5年過ぎたから、安心ですね」と声をかけると、「いや、私と同室だった人は、7年目に再発したから、油断はできないんです」と。

「宮川先生も市民健診で引っかけたけれど、精密検査の結果、何ともなかったというのは運がよかったですね」といわれました。私には重いひと言で、毎年、検査をしていても安心できないことを、来局者の方々から、教わった次第です。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「五月晴れを堪能しましょう」

